

# 全国納税貯蓄組合連合会優秀賞

## 「未来への寄付」

足立区立 第四中学校

三年 高木 綾子

私たちの生活にいきっている税とはなんだろう。学生の私にとって、最も助けられていると感じる場面は、教育の援助だ。

小学校から大学、公立から私立、さらに高度な研究の分野に至るまで教育に関して幅広くサポートしているものに、文教および科学振興費というものがあり、税金から賄われている。

私が税に関心を持ったのは、高校受験を控え、高等学校等就学支援金の存在を知り、ここから支出されているものだとわかったからだ。いわゆる高校無償化である。

家庭環境によって学習の機会が大きく異なるともいわれる中、行政がサポートしてその差を小さくしていくことは、家庭や、進路に悩む学生本人にとって大きな助けになることは間違いない。学校の選択肢が広がり、より自身の希望に沿った進路を選択できる学生が増えていくことだろう。

また、私は現在、区が運営する学習塾に通っている。受講料は無料で、家庭の事情などで民間の学習塾に通っていない中学三年生を対象としたものである。この取り組みも「教育の援助」の一つであり、税金によって賄われている事業だ。平等な教育を受け、誰にでもチャンスのある環境を作るのが税の役割の一つなのだと思えて感じた。子供の未来を地域全体でバ

ツクアップしてくれている実感が私自身、モチベーションを維持できている理由にもなっている。たくさんの人に支えられているとわかるからこそ、私は毎日机に向かえている。税を通じて支援を受ける当事者である私たちが、その源である税や納税者の存在を忘れてはならないと思う。そして、私にはこの塾がなければ出会えなかった、切磋琢磨しあえる友達、親身に教えてくださる先生、励ましアドバイスをくださるサポートティーチャーの方々がいる。塾に入って私の世界は確実に広がった。この取り組みは、勉強の場を提供することだけにとどまらず、私たち子供の未来や可能性を開くきっかけにもなっているのだ。

税の用途は全て、社会に欠かせないもの。ということとは、様々な支援を受けている私たちには、たくさんの方の期待が込められているといえる。つまり、当事者である私たちの行動によって、社会がより豊かになることを望まれているのではないだろうか。私はそのことを心に刻み、お互いに支え合って生きる社会の一員として、自覚を持って勉強に励んでいくと決めた。今受けたサポートを自分なりに最大限活かせるように生き、地域社会に貢献できる大人になりたい。

税は社会を、誰かの人生を豊かにするために使われる。そして助けられた人は、納税者としてまた他の誰かの力になる。そんな人と人との輪が、より良い社会を形作っていく。